

「原発を動かすために余計なものをつくるな！」～広瀬 隆さんが強調

基調講演で広瀬さんは、電磁波が放射能と同じように身体、とくに母子の健康に悪影響のあることを説明、一昨年、原子力安全・保安院が電磁波について国際的なガイドライン（4ミリガウス）の500倍もの基準を決めたことを強く批判した。また、日本ほど地下水が豊かな国はなく、リニアのトンネルを掘れば地下水が流失し、地盤沈下や農業用水の枯渇という事態を招くと警告した。

広瀬さんはさらに、JR東海・葛西敬之会長の「原発無くして日本の未来は無い」という発言を紹介、原発を動かすためにリニアが建設されるのでは、という見解を述べた。そして、東京や神奈川はじめリニア路線が予定される5県には原発はなく、そこに住む人たちに原発再稼働を求める資格はないと断じた。結論は「原発を動かすために余計なものをつくるな！」。

パネルディスカッション～運動の進め方めぐり、会場からも多くの意見

第二部はパネルディスカッション。リニアは必要とされているのかをめぐって、まず、パネラーの専門家2氏が意見をのべた。

初めに物理学者の阿部修治さんがリニア技術と事故の危険性について解説した。リニアはスピードマニアには魅力的かもしれないが、公共交通機関、大量輸送機関としては失格で、騒音と事故で撤退した超音速旅客機コンコルドの轍を踏むおそれがあると指摘した。新幹線の半分の重さしかないリニアを動かすのに3倍もの消費電力が必要で、リニアは省資源、省電力の時代に合わず、鉄道本来のメリットを失くすと述べた。また、過去に地震で上越新幹線が脱線した例を挙げ、リニアは精密な構造なので、軽微な損傷でも大事故につながる可能性があるかと警告した。

千葉商科大学院客員教授の橋山禮治郎さんは「リニア計画の凍結こそが最善の道」をテーマに、交通政策上のリニア計画の過ち、不透明性、危険性について言及した。その中で橋山さんは、リニアには航空機の性格があり、当初は東京・名古屋・大阪しか停まらない予定だった。各県知事が反対したため中間駅を一県1か所つくることになったが、かえって地元負担が増す。リニアは「全国的な鉄道網の整備」「地域の振興に資する」「全国の中核都市を合理的に結ぶ」という整備新幹線計画の目的にもとるものであると述べた。橋山さんは、まず東海道新幹線の大規模改修が先決で、経済性、技術的信頼性、環境適応性に問題があるリニア計画は凍結して考え直すべきだと結んだ。

このあと、コーディネーターの川村晃生さん（慶応大学名誉教授、リニア・市民ネット代表）が「私たちは理論面でリニアについての知識をだいぶ共有できたが、国民にリニア計画凍結の声を広げるためには運動面での強化が必要」として、参加者の意見を求めた。

会場からは、「リニアは東海道新幹線の収益でつくられるのなら、リニアをやめさせるために東海道新幹線の特急料金の値下げ運動をしよう」、「JR東海と今日ここに来られた研究者らとの公開討論を実現させよう」、「飯田市の高校生の声は三分の二がリニアに疑問を持っていた。若者たちに運動に加わるようにすべき」、「技術的な話が多く、今後は女性にもわかりやすい運動を」、「JR東海首脳部にもリニアに疑問を持っている人がいる」などの意見が上がった。

集会はこの後、ネットワークに参加する6団体の代表者らが登壇し、活動内容の報告や今後の抱負を述べ、最後に「リニアに対して共通の思いを抱いている沿線住民が手を携えて、リニア計画下撤回されることを目的に、リニア新幹線沿線住民ネットワークの結成を宣言する」という結成宣言が読み上げられ閉会した。川崎・町田から47名、相模原から188名の市民が参加した。